

2022年度 個人研究実績・成果報告書

2023年 4月 24日

所属	人間社会学部	職名	准教授	氏名	中倉智徳
研究課題	公共社会学の理論的検討およびその応用可能性について				
研究キーワード	公共社会学、地域、アクティブラーニング	当年度計画に対する達成度	2.順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が達成できた		
関連するSDGs項目	11. 住み続けられるまちづくりを	1. 貧困をなくそう	5. ジェンダー平等を実現しよう	16. 平和と公正をすべての人に	

1. 研究成果の概要

人間社会学部のテキストにおいて、公共社会学について論じた。また、市川市域での各アクティブラーニングにおいて、地域の人々（パブリック）との協働を行った。また、『現代思想』において、論文「タルドのモナド、ラトゥールのプラズマ」において、社会的に活動する際に、人々だけではなく、シンボルのようなものも含めて、潜在的なものの活用の重要性について論じている。

また、科研費の基盤研究（C）の「地域社会におけるケイパビリティに基づく福祉行財政の基礎理論——自治と自立の検討」（研究代表・村上慎司（金沢大学））に共同研究者として参加しているが、コロナのため実地調査を行うことができなかった。オンラインでの研究会等で継続して共同研究は継続していた。

2. 著書・論文・学会発表等（査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）

【論文（査読あり）】

なし

【著書・論文（査読なし）】

（共著）

千葉商科大学人間社会学部編，2023，『はじめての人間社会学——現代社会とSDGs（第二版）』中央経済社。（第4章「わくわくする，調べる，自由になる」を担当）

論文（査読なし、招待あり）

中倉智徳，2023，「タルドのモナド、ラトゥールのプラズマ——アクター・ネットワークの外部に残るもの」『現代思想』51(3) 161-171.

【学会発表等】

なし

3. 主な経費

主には書籍購入に充てた。また、地域での公共社会学実践のため、アンプ等を購入し、じっさいにいちかわミュージック・パークやエドロック・カワミューにおいて使用した。

4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）

【科学研究費】

基盤研究（C），2019～2023 年度，分担，課題名「地域社会におけるケイパビリティに基づく福祉行財政の基礎理論——自治と自立の検討」（19K02156）

（本文は 2 ページ以内 にまとめること）